

## 丹沢：鬼石沢

- ◆日程 2021年5月29日(土)
- ◆メンバー L: SD、OM、KH、OY
- ◆天候 晴れ

梅雨入り前の晴天、西丹沢の鬼石沢を遡行する。新松田7:20発の西丹沢ゆきバスを目指し、7:00頃にはメンバーが揃う。コロナ禍ではあるが多くの人が行列を成しバスを待つ。予定通りのバスに乗り、一時間ほどで大滝橋BSに到着した。身支度を整え、まずは一軒家避難小屋を目指す。

林道を進むと単独登山者、ゲート付近に10名程度のパーティーがいたが、いずれも沢装備であった。畦が丸への登山道でもあるが、このルートはやはり沢登りが多いようだ。その後も3名パーティーが後方を歩いていたが、マスク嵐沢付近でザックを降ろしていたので、沢登りなのだろう。この日の気温は30℃近くまで上がるとの予報、汗を拭いながら一時間弱で一軒家避難小屋に到着した。ここで休憩しながら沢装備に切り替え、作業道の先の堰堤を越え入渓する。

新緑の沢を暫く遡行する。川幅は広く、丸い角のない岩が多く、砂地が多い沢である。先ほどの暑さが嘘のようにすがすがしい。程なくしてF2-10mが現れる。滝の幅は広く、水量も比較的多いが、傾斜は緩い滝である。一応ロープを出したが、皆余裕をもって登る。続くF3-20mは比較的傾斜が緩く、右側に残置ハーケンが4~5か所ある。SDさんがリードで登るが、岩全体が濡れており、多少滑りやすいようだ。後続も滑りやすいスタンスを気にしながら、皆無事に登ることができた。その後はナメ滝や小滝の連続でバリエーションに富んだ沢である。ところどころ堰堤が現れるが、難なく超えることができる。そして現れたのはF5-6mCS、3枚の大岩が重なった滝で、岩と岩の中を抜けてゆく。ぱっと見、開口部も広く難なく抜けられそうなのだが、手掛かりも少なく、多少苦戦する。その後、F6、小さな滝をいくつか超えると、名物？大きな岩がのった堰堤が現れる。下から見ると、もう少し流されれば落ちるのではと思わせるように、堰堤からはみ出している。登って見れば安心、はみ出している部分は10%にも満たない。その後もナメ滝やスラブ上の滝、岩が積み重なったような低い滝など、飽きることなく遡行できる。稜線が近づくと分岐が多くなるが、正解を進むと難なく稜線に上がることができる。畦ヶ丸避難小屋で休憩をしてビジターセンターへ下山する。

アプローチが長くルートも比較的長いことから、下山時間が気になる山行ではあったが、ロープを使うような大きな滝がなかったため、スムーズに遡行ができ予定より早い下山ができた。新緑の西丹沢、バスは混雑していたが、入渓後は他のパーティーと会うこともなく、清々しい鬼石沢は楽しい沢であった。



(記: OY)

CT: 大滝橋BS 8:43 - 一軒家避難小屋 9:36/10:04

- 畦ヶ丸避難小屋 13:40/14:13 - 西丹沢ビジターセンター 16:32